様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ９ 月　 ６ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３６０００３

研究課題名（和文）生業特性から見た文化的景観構成要素としての集落評価

研究課題名（英文）Village-scape evaluation based on characteristics of livelihoods as an element of a cultural landscape

研究代表者
八百板　季穂（Yaoita, Kiho）

北海道大学・観光学高等研究センター・特任准教授

研究者番号：３０６０９１２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、バングラデシュテクナフ半島において、文化的景観の構成要素としての集落景観の評価を試みた。具体的には、異なる生業形態を有する集落を対象として、土地利用の把握を中心に景観構成を把握することを目的とした。
　結果として、テクナフ半島全体で、文化的景観としての価値を継承しているものとして、農村の形態や構成要素、地域コミュニティ、牧畜、田畑、海岸、防風林、ガルジョンの森などが挙げられることが明らかになった一方、山林、海岸道路建設による農村と海岸の空間的断絶や生態系、パーンボロズ製作のための森林資源の消失などが失われた要素として挙げられることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This study aims to evaluate village-scape as elements of cultural landscape in Teknaf peninsula in Bangladesh. Landscape structure was understood through land use pattern analysis in villages with different livelihoods.
In results, elements of village scape, local community, farming land, agricultural fields, shore line, wind breaker trees are identified as elements of cultural landscape. On the other hand, forests, breaking off of special continuity between villages and shore by road construction are identified as lost elements of cultural landscape.

研究分野：文化遺産マネジメント

キーワード：文化的景観　バングラデシュ　テクナフ　集落景観評価　文化遺産マネジメント

１．研究開始当初の背景

本研究の対象地であるテクナフ半島は、バングラデシュ人民共和国の最南東端に位置する。国土の大半がガンジス川デルタの低湿地である同国において、テクナフ半島は、国土東部の丘陵地帯が海に沈む場所であり、固有の自然景観を有する。半島の西岸に広がる砂浜は、ベンガル湾から運ばれる砂の堆積によって形成されたもので、その全長は約 120km であり、世界最長といわれている。また、南北に延びる半島には伝統的な農業や漁業を営む集落景観が連綿と形成されている。しかし、近年の農業形態の変化や農地の拡大により、農地が周辺の自然環境を浸食し、農業という生業の持続可能性が危ぶまれている。

２．研究の目的

本研究の目的は、貧困地域でかつ観光未開発地域であるバングラデシュ人民共和国テクナフ半島の複数の集落において、特徴を有する生業に着目し、有形・無形の遺産を総合的に把握することで持続可能な観光開発の資源として価値付けることである。具体的には以下の 4 点、すなわち、①テクナフ半島全体の景観構造の解明（景観構成要素と空間構成の分析）、および、②文化的景観構成要素としての農業集落の遺産価値、③漁業集落の遺産価値、④塩田集落の遺産価値、に着目した調査・分析を実施することで、テクナフ半島全体の文化的景観としての遺産価値を明らかにする。またさらに、上記の成果を考察し、地域景観を持続可能な観光開発に活用可能な文化遺産として評価する研究手法としての本研究の妥当性及び応用性を検証する。

３．研究の方法

まず、現地踏査および航空写真の分析により、テクナフ半島全体の景観特性について把握した。次に、生業の特徴（農業、漁業、塩田などの組み合わせ）ごとに 4 集落を選出し、集落の概要や生業形態についてヒアリング調査を行った。また、現地にて集落の文化的景観を構成する景観資源を抽出した。その際、①集落や丘陵地全体を俯瞰する大景観、②集落の家並み、町並み、農地といった中景観、③屋敷地や畑といった小景観の 3 段階に分類して分析した。

４．研究成果

以下に示すように、アラカン山脈の造山運動という地球規模の活動がベンガル湾の東辺に特異な自然景観を生みだし、そこに長年にわたる人々の営為が刻まれ、いくつかの歴史的文脈を積み重ねて、世界にも希有な景観を創出している。この自然と人の営為が創り出した景観は、世界文化遺産にも登録可能な文化的景観として価値付けることができるのではないかとの仮説を設定した。

(1) 自然的価値

アラカン山脈の西端がベンガル湾（インド洋）に沈む地に、その山脈の終端に沿って形成された世界最長の 120km にわたる砂浜からなる海岸線をそのまま残す点。

(2) 文化的価値

南北に延びる山脈のすそ野からそれに沿う砂浜までのわずかな微高地（緩傾斜地）に、人々が叡智を注ぎ、農地と集落を築き、海では漁を山では山林と草地を管理することでエコロジカルに生活してきた景観がつくり上げられている。これらは、以下のような構成要素を持つ。

・北部コックスから南 35km までの海岸線は、永らくバングラにおける国民的保養地としてビーチが保全、開発され愛されてきた歴史とその景観を持つ。
・上記以南から 60km にわたっては、山から海にいたる南北 1～2km 幅の集落単位が数十、繰り返し展開し、少しずつ異なる土地に暮らす人々の姿を絵巻物として見せている。
・テクナフ半島西岸では、海から丘陵地に向かって海岸、農地、集落、パーンボロズ、山林という土地利用が繰り返される農地景観が広がっている（写真 1, 2、 図 1）

写真 1 農地とその背後の防風林

写真 2 農地と屋敷林に覆われた集落、丘陵地

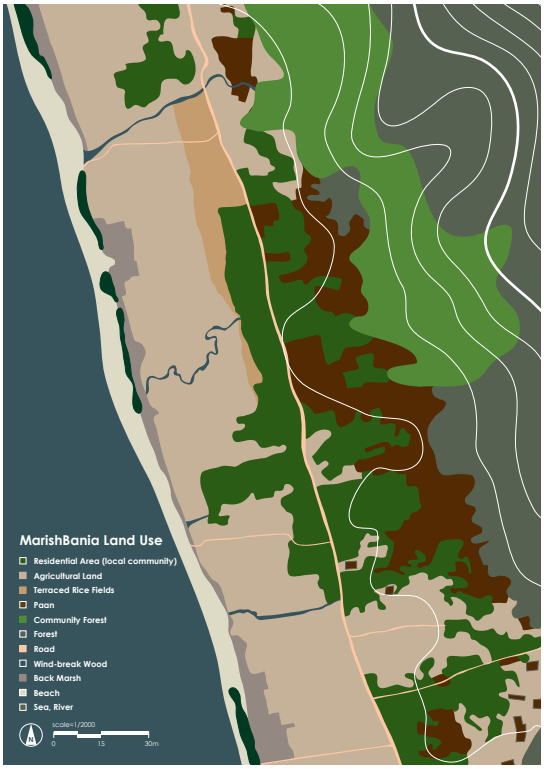

図 1 農業を生業とする集落の土地利用
（長野麻里子作成）

・テクナフ周辺より以南 15km には、山脈南端に寄りついた砂が砂嘴を形成し、その形成段階を示す集落や防風林が同心円状に発達した特異な景観が見られる。
・テクナフ半島最南端には、水田を起源として約 50 年前から開発された塩田が南北 3km にわたって半島を埋め尽くしている。この今なお活況を呈する製塩の営みや運河による水運の景観は、海に面して生きてきた農村の暮らしを示す重要な文化のサンプル（標本）である（写真 3，図 2）。

写真 3 塩田の景観

・テクナフ半島南端には、塩田と農業、漁業と貿易を生業とする 14 の集落が低湿地や農地などを包含しつつ塊状に広がり、未だ形成しつつある半島地形の先端には、野鳥の保護区の湿地があるなど、特有の景観を示している。

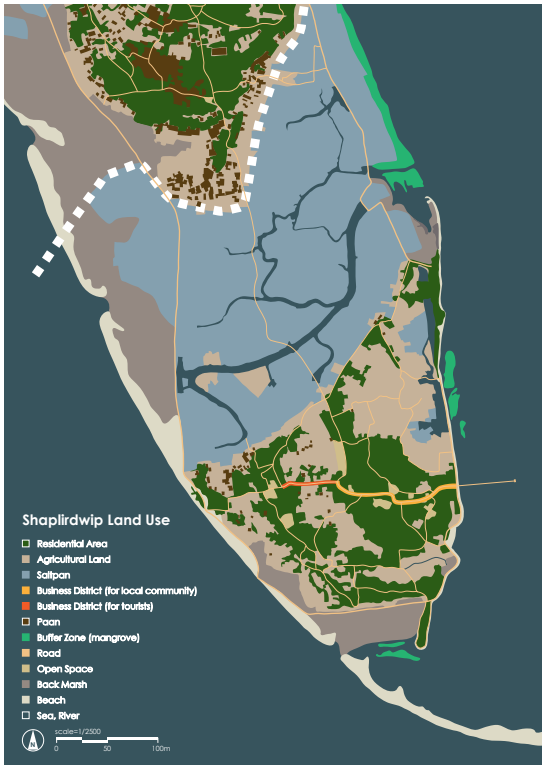

図 2 塩田業を主要な生業とする集落の土地利用

・120km の海岸線において、集落単位で漁をする伝統的でユニークな形をした夥しい数の船が浜にならび、出漁や帰港時には、老若男女がそれぞれの役割を果たしながら漁の成果を分け合い、喜び合う景観が、今なお生き生きと展開されている（写真 4）。

写真 4 コミュニティ総出で網から魚を外す作業

・半島の南端から南へ約 13km に位置するセント・マーティン島は南北に長い（約 5km）珊瑚島である。ほとんど隆起がない平らな島の周囲に砂が堆積し、遠浅の海岸を形成している。この海岸においては、洋服を着たままで、足のみを海水に浸すというイスラム国ならではといえる海水浴の景観が展開されている。また、住民は、小さな島のわずかな土地において貴重な真水を利用しながら農業を主な生業とする生活を続けている。

・海岸を持たない仏教徒が暮らす集落チャクマにおいては、水田と放牧を中心とする土地利用が継承されており、仏教寺院も残されている。集落内には、イスラム教徒の世帯もあり、仏教の祭りにも参加している（写真 5，図 3）。

写真 5 仏教寺院

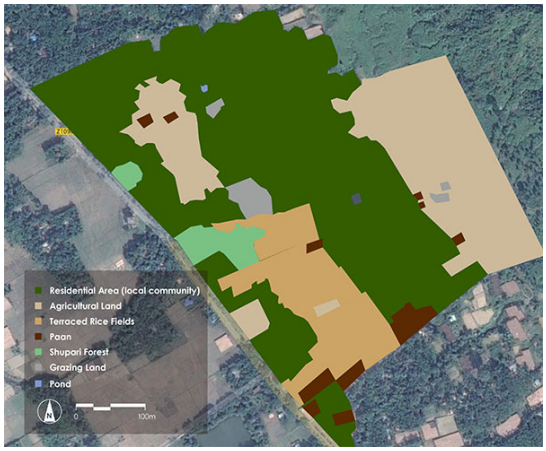

図 3 仏教集落の土地利用（島崎柚季、祝杏ナ、萩原一貴、趙宇テイ、富原靖之作成）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0　件）

〔学会発表〕（計　0　件）

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計　0　件）

〔その他〕
ホームページ等
http://kihoyaoita.com/

６．研究組織
(1)研究代表者
八百板　季穂（YAOITA, Kiho）
北海道大学・観光学高等研究センター・特任准教授
研究者番号：30609128

(2)研究分担者
（　なし　）

(3)連携研究者
西山　徳明（NISHIYAMA, Noriaki）
北海道大学・観光学高等研究センター・教授
研究者番号：　60243979

谷　正和（TANI, Masakazu）
九州大学・大学院芸術工学研究院・教授
研究者番号：　60281549

花岡　拓郎（HANAOKA, Takuro）
北海道大学・観光学高等研究センター・特任准教授
研究者番号：　60643418

(4)研究協力者
アブ ユースフ シャパン（Abu Yusuf Swapan）
カーティン大学・PhD リサーチャー

ファイサル フダ（Faisal Huda）
プレミア大学・講師